

6 災害調査 平成 18 年 1 月新潟県津南町豪雪調査

研究代表者	雪氷防災：山口悟	実施期間	平成 17 年度
研究参加者	特別研究員：岩本勉之 平島寛行		

[目 的]

平成 17 年 12 月から 18 年 1 月にかけて、新潟県山間部は豪雪に見舞われた。中でも津南町はアメダス観測地点における積雪深は過去最高を記録し、JR の不通や長野県栄村へと通じる国道 405 号線が長期間に渡って閉鎖されるなど、市民生活に大きな影響が発生した。その実態を知り、今後の雪害対策に資するため、現地調査を行った。

[実施内容]

平成 18 年 1 月 10 日、18 日および 25 日に現地に赴き、写真撮影を行った。

[成果と効果]

図 1 に津南アメダス(写真 1)における気温と積雪深を示す。12 月 11 日頃から低温傾向に転じ、その状況は 1 月 13 日まで続いた。積雪深は急激に増加し、1 月 12 日には過去最高の 397cm を記録している。その後は一時的に気温が上昇して積雪深は減少したものの、1 月 17 日からは再び気温が低下し、積雪深が増加している。今後の積雪状況が懸念される。

写真 2 は国道 112 号線から津南駅へと通じる市街地の県道の様子である。雪により道幅が実質 1 車線分に狭まっている。また歩道が雪に埋まって利用不能になっているため歩行者は車道を歩いており、危険な状況である。津南町郊外では積雪はさらに多く、バスの停留所は雪で埋まり、今後の積雪の推移によっては道路標識の視認も困難になる可能性がある(写真 3)。幹線国道では一部で排雪作業が行われていたものの、生活道路はほぼ手付かずの状態であった。そういった場所では雪が高く積まれており個人レベルでの除雪作業はほぼ不可能な状況であると考えられる。行政による対策が必要である。

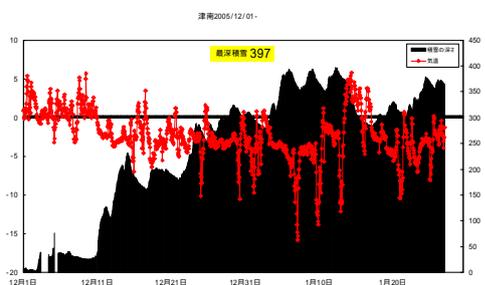


図 1 津南アメダスにおける気温と積雪深の時系列。2005 年 12 月 1 日から 1 月 27 日まで。



写真 1 津南アメダス



写真 2 雪山によって狭くなった道路



写真 3 雪に埋もれたバス停